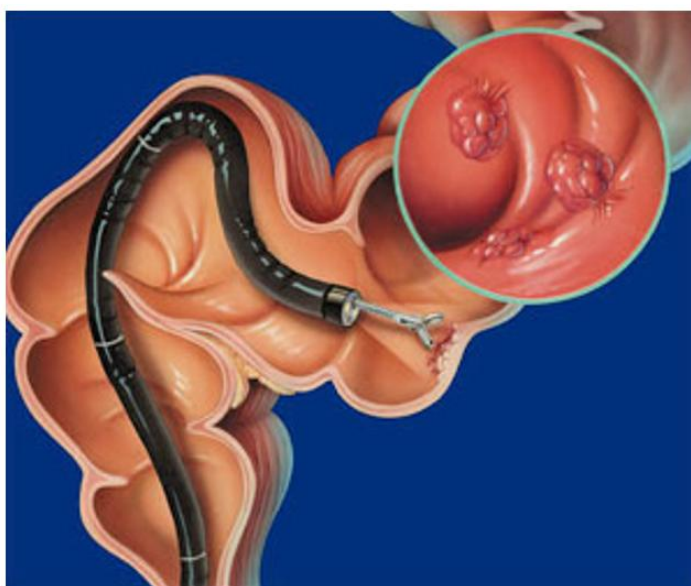


大腸内視鏡検査による大腸がん 死亡の減少について

米国では、大腸内視鏡検査の受診率増加により、50歳以上の大腸がんの罹患率が32%減少しており、大腸がんによる死亡数も34%減少しています。これは、大腸ポリープの発見・除去により大腸がんを予防できるようになったためであると、米国がん協会（ACS）が発表しました。



当院では、大腸内視鏡検査による大腸ポリープの診断・治療を積極的に行い、大腸がんの予防に努めています。

